

K A Z U N O R I T A K E G O S H I

Ceramic Art Exhibition at Midorigaoka Art Museum in Nara, Japan

●色絵九谷―「蒼天の記憶」
武腰一憲展

シルクロードの心象風景

九谷「サマルカンドブルー」

古来、シルクロードの要衝として栄えたウズベキスタン共和国の古都サマルカンド。澄み切った青い空とゆったりと流れる時の移ろい、緩やかにまどろむ人々の営みには遠い日の憧憬が甦る。

世界一美しいと称されたサマルカンドの「青」に惹かれ、九谷焼で再現した武腰一憲。サマルカンドを訪れた時の感動の衝撃がひとりの陶芸家の感性を突き動かした。光は月からしか来ない、サマルカンドの青い夜。

月と影が武腰の作品に命を与えた。

武腰一憲は、九谷の伝統を継承しながら古九谷風とは異なる作風として、九谷「サマルカンドブルー」を創出し、独自の作品を生み出した。

緑ヶ丘美術館でシルクロードの郷愁を是非とも堪能くださいませ。



2023年7月9日①～9月10日①

〔開館日〕 水・木・土・日曜日 11:00～16:00 (入館は15:30まで) ●入場無料

〔休館日〕 月・火・金曜日

〔会 場〕 緑ヶ丘美術館・別館 → 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 1426-38

〔URL〕 <http://mam-museum.com> 〈お問い合わせはFAXで：FAX. 0743-85-7879〉

写真：「色絵遠い日花器 月の器・演奏」

MAM-ANNEX

Midorigaoka Art Museum

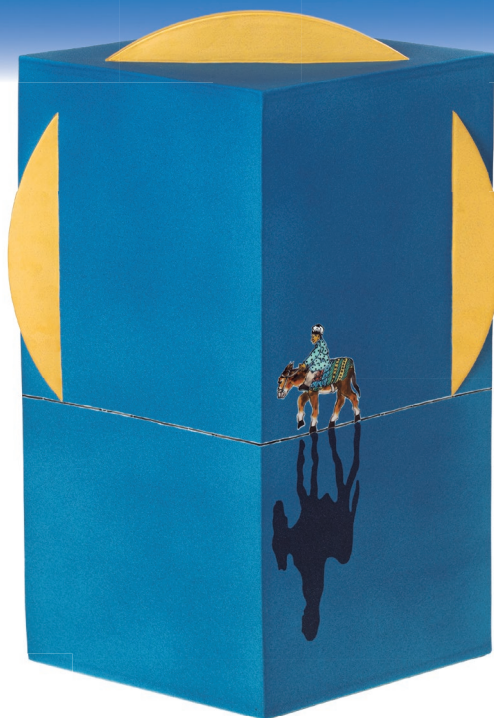
緑ヶ丘美術館・別館

KAZUNORI TAKEGOSHI

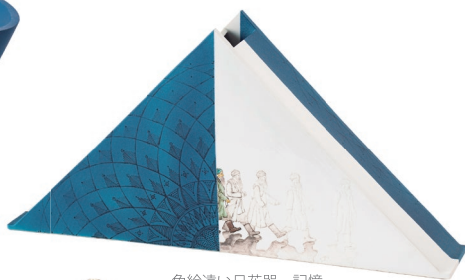
Ceramic Art Exhibition at Midorigaoka Art Museum in Nara, Japan



色絵遠い日花器 天空



色絵遠い日花器 月輪の器



色絵遠い日花器 記憶



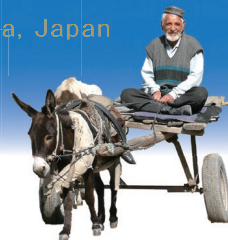
色絵遠い日花器 家路



蒼天の記憶 武腰一憲展

●武腰一憲（たけごし かずのり）・＜略歴＞

- 1956年 石川県能美市寺井町に九谷庄三洞四代善平の長男として生まれる
- 1979年 金沢美術工芸大学陶磁専攻卒業
- 1980年 日展初入選以降入選を重ね 特選2回受賞 審査員5回就任
- 1981年 日本現代工芸美術展初入選以降入選を重ね 5回受賞 審査員8回就任
- 1986年 石川県工芸美術展工芸大賞 受賞
- 1988年 シンガポール芸術祭選抜出品 初個展（以降三越、高島屋、和光等で多数開催）
- 1995年 伝統九谷焼工芸展大賞 受賞 ウズベキスタン共和国初訪問
- 1998年 「九谷焼の100年」展（パリ）選抜出品
- 2007年 タシケントビエンナーレ出品 ウズベキスタン共和国再訪
- 2012年 里文出版刊行の「美術工芸の明日を担う二十人」に選出される
- 2014年 日本現代工芸美術展文部科学大臣賞 受賞
- 2015年 北陸新幹線開業に伴い新装されたJR金沢駅コンコースに陶板制作
- 2019年 日本現代工芸美術展内閣総理大臣賞 受賞
- 2020年 第74回北國文化賞 受賞
- 2022年 芸術新聞社刊行の「至高の名陶を訪ねる・陶芸の美」に掲載
- 現在 (公社) 日展特別会員
(一社) 現代工芸美術家協会理事
(一社) 石川県美術文化協会理事
石川県陶芸協会常任理事
能美市美術作家協会理事



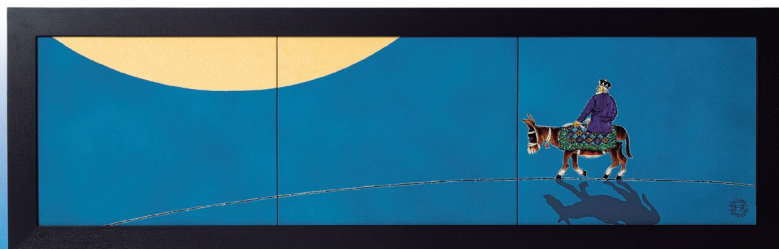
色絵遠い日花生 家路

サマルカンドブルーに秘められた
シルクロードの郷愁
「遠い日」シリーズ

武腰一憲は、九谷焼善平窯の五代目。初代武腰善平は、九谷焼中興の祖・九谷庄三の義弟であり、高弟でもあったことから九谷庄三洞善平窯の名を授かる。以降、歴代共に九谷焼の名門として優れた作品を世に送り出した。
五代目の一憲は、シルクロードの地・サマルカンドで「世界一美しい青」と称される真っ青な空と青いモスク、人々の暮らしの風景などに衝撃を受け、今までの九谷になかった現代的な表現を取り入れた独自のデザイン「遠い日」シリーズを完成させた。その時に作り上げた九谷の新しいマッポな青こそ「サマルカンドブルー」である。



色絵遠い日花器 静夜



色絵遠い日陶額 帰路

MAM-ANNEX

Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館・別館

